新编日语教程 6

●总策划/许小明（第二版●赠MP3光盘）

●总主编/皮细庚 ●主 编/张建华

華東理工大學出版社

新编日语教程 6

（第二版 ●赠MP3光盘）

●总策划/许小明
●总主编/皮细庚 ●主 编/张建华

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日语教程 6(赠 MP3 光盘)/张建华主编. —2 版. —上海：华东理工大学出版社，2010.3

ISBN 978-7-5628-2692-7

Ⅰ.新... Ⅱ.张... Ⅲ.日语-教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 022201 号

新编日语教程 6（第二版）（赠 MP3 光盘）

总 策 划 许小明
总 主 编 皮细庚
主　　编 张建华

顾　　问 / 许　纬
项目负责 / 陈　勤
责任编辑 / 苏　靖
责任校对 / 李　晔
封面设计 / 戚亮轩
插　　图 / 赵　蓉
出版发行 / 华东理工大学出版社
地　址：上海市梅陇路 130 号，200237
电　话：(021)64250306(营销部)
(021)64252717(编辑室)
传　真：(021)64252707
网　址：press.ecust.edu.cn
印　　刷 / 江苏句容市排印厂
开　　本 / 787mm×1092mm　1/16
印　　张 / 16.75
字　　数 / 400 千字
版　　次 / 2007 年 10 月第 1 版
2010 年 3 月第 2 版
印　　次 / 2010 年 3 月第 1 次
印　　数 / 26101—33100 册
书　　号 / ISBN 978-7-5628-2692-7/H·915
定　　价 / 38.00 元(赠 MP3 光盘)

(本书如有印装质量问题，请到出版社营销部调换。)

前言

本套教材共六册，主要针对日语专业、社会日语培训的学生以及日语爱好者等多种人群。日语能力考试自 2010 起开始实施全方位的改革，为了应对此次改革，本套材料的内容也作出了相应的调整。从零起点开始，学完第一册能达到新日语能力考试 N5 级程度、J.TEST 考试 F 级程度；学完第二册能达到新日语能力考试 N4 级程度、J.TEST考试 E 级程度；学完第三册能达到新日语能力考试 N3 级程度、J.TEST 考试 D 级程度；学完第四册能达到新日语能力考试 N2 级程度、J.TEST 考试 C 级程度、日语口译中级阶段；学完第五、六册能达到新日语能力考 N1 级程度、J.TEST 考试 B、A 级程度、日语口译高级阶段。

本套材料注重培养学生学习日语的方法和兴趣，让他们通过对日本文化、风土人情等全方位的了解，达到全面学习日语的目的。在和新日语能力考试接轨的同时更注重日语实际运用能力的提高，培养学生的开口能力。第一册教材学完，能熟练掌握日语的寒暄语；第二册教材学完，能掌握基本的日常会话；第三册教材学完，能够进行日常交流；第四册教材学完，能掌握日常办公室用语；第五册教材学完，能掌握流利的会话和日语商贸用语；第六册教材学完，能掌握日语口译和笔译能力，达到流利的日语交际和应用能力。

第一、二册教材主要针对零起点学习者，编写时以营造轻松愉快的学习课题为主线，让初学快速融入日语学习的角色里，学完两本教材能达到日语 3 级程度。

第三、四册教材的导入部分、日语会话和阅读部分均用日语编写。这样可以使学习者沉浸在全日语的环境中，扎扎实实提高自己的阅读能力。另外，每课的练习与传统教材完全不一样，采用针对以新日语能力考试新基准模拟的方式，并且将每课单词、文法阅读全部融入练习中，让学习者能及时巩固所学内容。

第五、六册的编写是在第三、四册教材的基础上，将新日语能力考试、J.TEST 考试、口译考试、办公礼仪和商务口语全部融合在一起，让大家能学到更加地道、流利的日语。同时在练习部分将 N1 级能力考试、口译考试、J.TEST 考试部分融入每课练习中。

第五、六册教材各由 12 课组成。每课分别设有“课文、单词、文法、文型、会话、练习”等六部分。

本书附录部分收录了每课课文中所出现的单词及补充的 N1 词汇，并配有参考答案。我们希望本教材可以帮助读者有效地提高日语水平，同时也进一步提高新日语能力考试及其他各类考试的应考能力。

另外，本册课文的中文翻译部分收录在 MP3 光盘中，请广大读者参考使用。

本教材在编写过程中得到了上海外国语大学、上海工商外国学院、中国 J.TEST 事务局的大力支持和协助，得到了新世界教育集团诸位日语专家的大力支持和协助。在此，谨向对本套教材的编写给予过帮助的单位和个人致以谢意。书中不妥之处在所难免，诚请同行专家和广大读者不吝指教，以便今后进一步完善。

许小明

2010 年 1 月

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

目次

第13課　立ち読みの楽しみ …… 1
単語 …… 5
文法 …… 9
文型 …… 10
会話 …… 12
練習 …… 13

第14課　ピーターラビットとナショナルトラスト …… 19
単語 …… 23
文法 …… 28
文型 …… 32
会話 …… 35
練習 …… 36

第15課　「目の人」と「声の人」 …… 42
単語 …… 46
文法 …… 49
文型 …… 51
会話 …… 54
練習 …… 55

第16課　風景から学んだこと …… 61
単語 …… 63
文法 …… 67
文型 …… 69
会話 …… 71
練習 …… 72

第17課　サーカスの馬 …… 79
単語 …… 82
文法 …… 86
文型 …… 89
会話 …… 91
練習 …… 92

第18課　自転車の練習 …… 98
単語 …… 101
文法 …… 102
文型 …… 105
会話 …… 106
練習 …… 108

第19課　ベンチ …… 113
単語 …… 116
文法 …… 118
文型 …… 120
会話 …… 122
練習 …… 123

第20課　人間を作ることば　ことばを作る人間 …… 129
単語 …… 133
文法 …… 135
文型 …… 139
会話 …… 140
練習 …… 141

第21課　「ありがとう」と言わない重さ …… 148
単語 …… 151
文法 …… 154
文型 …… 156
会話 …… 158
練習 …… 159

第22課　風の旅 …… 165
単語 …… 169
文法 …… 172
文型 …… 178
会話 …… 178
練習 …… 180

第23課　「アイムソーリー」 …… 186
単語 …… 190
基本文法 …… 193
文型 …… 197
本文練習 …… 198
課外練習 …… 199

第24課　トロッコ …… 206
単語 …… 210
基本文法 …… 213
文型 …… 216
本文練習 …… 216
課外練習 …… 218

附录
一、本册单词索引 …… **224**
二、五、六册 N1文法索引 …… **236**
三、补充词汇（N1） …… **239**
四、参考答案 …… **253**

第 13 課　立ち読みの楽しみ

曾野綾子 *

その夜は、越前大野に泊まることになっていた。

翌日、九頭龍川のダムを見学するためである。九頭龍川の水は、今や痛々しいほど、ダムのために使われている。私が行こうとしているのは西勝原という所に作られている重力式ダムであった。出力四万八千キロワットという発電力はそう大きなものではないけれど、そのころ、私は憑かれたようにダムを見て歩いていたのだった。

私は宿で一休みするとふらふらと午後の大野の町へ出て行った。にぎやかな本通りへ出ようとする直前の所で、私は一軒の店の前で足を止めた。

それは地方の小都市にいくらでもありそうな衣料品屋であった。化繊のかすりの農作業衣や、軍手、子供用のはんてん、ブラウスやセーターなどを売っている。

私の目にとまったのは、茶色いごくありふれた男物のジャンパーであった。前が隠しボタンになっていて、工事現場の男たちがだれでも着ているものである。

大中小とあるというので、私は中を着てみた。すると、手が半分以上隠れてこっけいなかっこうになった。

小サイズでも、裄はまだ長すぎた。しかしそれはカフスを折っておくことでなんとかがまんできた。

「あんたがそれ着なはるんか。」

おばあさんは驚いたように言った。

私は前から現場へ行くたびに、この手のジャンパーが一つ欲しいと思っていたのだった。それは汚れも目だたず、ほこりよけにもなり、何よりだらけた感じがしなくて、女

---

* 曾野 綾子(ソノ　アヤコ)、1931年東京都生まれ。作家。カトリック教徒で洗礼名はマリア・エリザベト。聖心女子大学文学部英文科卒業。2009年10月より日本郵政取締役。

が男の世界に入ることの当惑を少しでも和らげてくれるものだった。

「それ着て、どこへ行きなはるんにゃろ。」

「勝原。」

「ああら、おっとろしや。」

大野市内の人々から見れば、川筋を奥へさかのぼったダム工事の現場などは、鬼の住みかとも思えるのだろう。

私は、五百六十円なりのジャンパーを抱えて、表通りに出た。そしてそこで、私の小さな物語の主人公に出会ったのだった。

それは、この町にしてはかなり大きな本屋だった。薬屋はあっても、いい本屋のない町はかなり多い。その本屋は少なくとも、東京の場末の本屋くらいの棚の面積がありそうなので、私は誘われるように中へ入って行った。

ちょうど、中高校生の学校のひけ時に当たるのか、店の中はかなりこんでいた。

私は書棚を端から端までながめて歩いた。わざわざ買わなくても、と思う本にためらい、旅先で書類が増えたので、文庫本にしようか、などとも思った。

店の正面の半畳ばかりの帳場には、度の強い近眼鏡をかけた店の主人が座っていたが、たまたま私が、彼の席から最も近い距離まで来たとき、私は彼の突然のどなり声に、心臓の動悸がしばらくやまなかったほど驚いたのだった。

「立ち読みせんな！」

と彼はどなったように聞こえた。しかしそれはまさに落雷のような声だったので、私は、一瞬、呆然と足を止めた。もちろんそれは私にむけてどなられたものではなかった。彼の一喝によって、入り口近くにいた数人の中学生たちがわいわいと逃げて行った。女子高校生たちは、今も昔も同じで、そういうとき、すましていた。中には、本当に立ち読みをしていた者もあるのだろうが、女はずうずうしくしらを切ることもできるのか、それとも本当に、何かを買おうとしていたのか、彼女たちは動かなかった。

驚きがおさまったとき、わたしは、「福井地方の民家」という地方の郷土史家の書いたものらしい本を一冊見つけた。この種の本は東京でなかなか見つけにくい。私はそれを例の主人が座っている帳場へ持って行った。そしてお金を払うとき、私はかれが、近視というより、弱視に近いことを知ったのだった。

かれは本の定価を見るとき、ページから目を一〇センチくらいの距離まで近づけた。そして、百円札のおつりを出すとき、それをあまりに顔の近くで数えたので、彼はお札を食べてしまうのではないかと思えたほどだった。

やがて私は、入り口の近くまで来て、さっき追い出された中学生や高校生が立ち読みしていた雑誌類の山を見つけた。そのあたりは漫画本も多かった。ふと私も漫画を一冊買って宿に帰ろう、と思った。漫画本なら、旅の一夜に読み上げて捨てていけばいいので

ある。

私が、漫画を選ぼうとしたときであった。

私の隣に、背の低い中学生が入って来た。彼が店を入るとき、わざと顔を隠すように帽子を目深にかぶり直したのを私は見ていた。

驚いたことに、かれはわき目もふらず、私のそばまで来ると——というより、私の体の陰にぴったり隠れるように立つと——少しも惑わずにある少年週刊誌のある漫画のページを開けた。そして、身も心も吸い取られそうに夢中で読み始めた。

少年が帽子のひさしを引き下げたのも、私のわきにぴったり寄り添って立ったのも有名な雷おやじの癖を知っていて立ち読みをやましく思っているからに違いない。

私はなんとなくかれを守ってやらねばならぬような気がした。本屋にとって、立ち読みをされることは確かに不都合なことではあろう。しかし、なぜか、私の心に、本は隠れて読むほうが楽しいという、幼いときからの信念のようなものがあるのだった。私は母から読んではいけないと言われている本を、試験の前日などに、酔うように読みふけった。大人が読むことを強要するだけで、もう本からは心躍るような魅力が抜けてしまいそうな気がした。

私の左側に立っているこのこましゃくれた子を、その品の悪そうな漫画を読む間、なんとしてもあのおやじから守ってやらねばなるまい、と私は決心した。

幸いなことに、そのとき店には電話がかかってきた。近眼の主人は愛想の悪い返事をしていたが、相手は何かしきりに勧誘しているらしく、おやじはなかなか電話を切れないでいた。それが終わるとまもなく、赤ん坊を背中におぶった母親が、問題集のことで何かくどくどと、交渉しに現れた。彼女も教育ママの一人であるらしかったが、彼女が帳場の前に立ちふさがっているおかげで、私たちは店の主人の視野に入らないでいられた。

彼女が帰ったとき、再び危機が来た。私は主人の目がこっちを向くのに気がついた。私はとっさに決心すると、漫画本の一冊を取って帳場のほうに歩き出した。私が本を買っている間だけでも、あの中学生は、立ち読みを続けられるだろう。

しかし、私が歩き出したとたん、その中学生も私の後を追うようにつかつかと帳場のほうへ歩いて来た。

私が本をお金とともに差し出したとき、中学生は、店の主人に向かって、

「ただ今！」

と言った。

「恒助！」

店の主人は、ぎょろりと目を上げて少年を見た。

「お母ちゃんが、PTAに出かけたで、おやつは茶箪笥の中にあると。早う食べて父ちゃんに代わって店番せえ。」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

少年は、うん、とも、ふんともつかない音をたてながら奥へ消えた。

私は本の包みを持って店を出た。道に桜の花びらが散っていた。

私は笑い出したかった。あの子が、用心深く近視の父親に見つからないように、帽子をかぶり直しながら、店へ入って来る姿がいまだに目に残っていた。かれが、雑誌の山の中から、これはと思うものを、あっさりと引き抜いたその手つきのあざやかさも、その店の子なればこそである。

それでもなお、立ち読みをやめない、というところが面白い。おそらくかれにとってみれば、勉強机の前で読むよりも、友達がやるように、いつどなられるかしれないというスリルを味わいながら、店先で読むほうが楽しいに違いないのだ。

私は駅近くまで歩いた。静かな者が山間の町に熟している。そろそろ日も暮れかかっていた。

私の泊まっているのは素朴な商人宿である。しかし清潔で、もてなしも暖かい。今夜の夕食に何が出るかも急に楽しみになってきた。

私はもと来た道をもどり始めた。

すると再び、私はさっきの本屋の前を通りかかった。

はげたペンキの看板が、こんどは、「勉強堂」とはっきり読めた。

勉強堂か！漫画など読むな、ということか！

店先には、再び、数人のほこりくさい学生たちが群がっていた。今度は、私は無責任に、あるドラマを内心待ち受けていた。店のおやじがまた、あの眼鏡の奥から、

「立ち読みはやめんか！」

とどなる場面である。

しかし、私の期待は、また別のほうからものの見事にくつがえされた。店頭までちょこまかと出て来て彼らを追い払ったのは、ほかならぬさっきのこの家の息子だったのだ。

「立ち読みしたらあかん！」

かれは手で、仲間を追い払うようなしぐさをした。数人は抗議をし、何人かはあきらめたように店から出て夕暮れの町に消えて行った。

私はその勉強堂のこましゃくれた中学生がなんとなく好きになったのである。父親の目を盗んで自分も立ち読みをし、父から命じられればまた、友達が立ち読みをするのを追い払う。

つじつまも合わなければそこに一貫した理屈のつけ方もない。けれどほんとうは、私もまた、あれに近い生き方をしている。むしろ彼の表現のほうがみごとで正直だったのではないか、と私は思ったのだ。

あれからもう、二年近くになる。今行っても、あの中学生はもう背が高くなっていて、私には、分からないに違いない。

単語

立ち読み (たちよみ)⓪	〔名・サ変〕	〔本屋の店先で〕売品である本や雑誌を買わずに、立ったまま読むこと。/(在书店不买书)站着阅读
越前(えちぜん)⓪	〔名〕	旧国名の一つ。ほぼ福井県中・北部に相当。/越前
九頭龍川 (くずりゅうがわ)③	〔名〕	福井県北部を流れる川。/九头龙川
痛々しい (いたいたしい)⑤	〔形〕	肉体的・精神的な打撃を受け、落ち込んだように見える様子に、心から同情を覚える状態。/非常可怜的,令人心痛的
出力(しゅつりょく)②	〔名〕	発電機・変圧器やエンジンなどから取り出せるエネルギーの量(最大仕事率)。/输出功率
キロワット③	〔名〕	〔kilowatt〕国際単位系における仕事率(電力)の単位で、千ワットを表わす〔記号 kW〕。/千瓦
憑く(つく)⓪	〔自五〕	(だれニ)― 心霊・魔物などがその人の精神を支配し、異常な言動をさせる。/(妖狐等)附体
一休み (ひとやすみ)③	〔名・サ変〕	〔仕事の途中で〕少し休むこと。/休息一会儿,稍事休息
ふらふら①	〔副〕	しっかりした目的を持たないで行動することを表わす。/晃晃悠悠地,悠闲地
本通り (ほんどおり)③	〔名〕	町なかの主要な道。表通り。メーン・ストリート。/主干道
一軒(いっけん)①	〔名〕	一戸。/一栋
衣料品 (いりょうひん)⓪	〔名〕	衣服(の材料)。/衣料
化繊(かせん)①	〔名〕	「化学繊維」の略。/化纤
かすり⓪	〔名〕	所々かすったように文様を織り出した織物または染文様。/轮廓飞白的花纹
軍手(ぐんて)⓪	〔名〕	太い白もめんで編んだ作業用手袋。〔もと、軍隊用であったことから〕/劳动手套
はんてん③	〔名〕	羽織に似て胸ひもが無く、襟の折り返らない上っぱり。/开襟棉袄
ありふれる④	〔自一〕	どこにでも有って、珍しくない。/常见的
男物(おとこもの)⓪	〔名〕	男性が使うように作られた品物。紳士物。/男士用品

（续表）

ジャンパー①	〔名〕	運動や作業用の上着。/宽松夹克衫
こっけい⓪	〔形動〕	まともな言動ではなくて、人の失笑の対象になる様子。/诙谐，滑稽
裄(ゆき)⓪	〔名〕	〔和服で〕背中の中心の縫い目から袖口(ソデグチ)までの長さ。/袖长
カフス①	〔名〕	ワイシャツ·婦人服のそで先(の折り返し)。/袖口
あんた①	〔代〕	「あなた」の口頭語形。/你
～よけ⓪	〔接尾〕	～を防ぐもの(こと)。/防，挡
だらける③	〔自一〕	何かしてやろうという、緊張した気持が無くなる。/懒散
当惑(とうわく)⓪	〔名·サ変〕	急に解決すべき難題に出あったり板ばさみになったりして、決断に迷うこと。/困惑，委决不下
和らげる(やわらげる)④	〔他一〕	穏やかな状態にする。/使……缓和
川筋(かわすじ)⓪	〔名〕	川が流れている所。川に沿った土地。/水路
すみか①	〔名〕	住む(べき)所。すまい。/住处
表通り(おもてどおり)④	〔名〕	市街を構成する主要な通り。大通り。前通り。/主要街道
場末(ばすえ)⓪	〔名〕	都市の中心部から離れた(ごみごみした)所。/关厢，城边
ひけ時(ひけどき)⓪	〔名〕	〔役所·会社·学校などで〕仕事(勉強)が終わって、そこを出る時刻。/放学时间，下班时间
文庫本(ぶんこぼん)④	〔名〕	小型のシリーズによる、名著(普及の望まれる本)の廉価版(の名)。/文库本，袖珍本
帳場(ちょうば)⓪	〔名〕	〔商店·宿屋などで〕帳付·勘定などをする所。/账房
近眼鏡(きんがんきょう)③	〔名〕	近眼の人がかける、凹レンズの眼鏡。/近视眼镜
動悸(どうき)⓪	〔名〕	ふだんより強い、心臓の鼓動。/心悸
やむ⓪	〔自五〕	それまで続いて来た勢いが、そこで終りになる。/停止

（续表）

落雷(らくらい)⓪	〔名・サ変〕	「雷が落ちる」意の漢語的表現。/打雷
呆然(ぼうぜん)⓪	〔タルト形動〕	気ぬけしてぼんやりとしたさま。/发呆,发愣
一喝(いっかつ)⓪	〔名・サ変〕	びっくりするような大きな声できつくしかりつけること。/大喝一声
わいわい①	〔副〕	大勢がそれぞれ騒がしくものを言い合うさま。/吵吵闹闹
ずうずうしい⑤	〔形〕	普通の人なら遠慮してやらない事を、平気でやる様子。/厚颜无耻的
弱視(じゃくし)①	〔名〕	視力の衰えたこと(目)。先天的に視力が弱いこと(目)。/弱视
読み上げる(よみあげる)④	〔他一〕	(難解な本や大部のものを)読み終える。/朗读,读完
目深(まぶか)①	〔名〕	〔帽子などを〕目が隠れるほど深くかぶる様子。/(把帽子)压低(到几乎遮住眼睛)
吸い取る(すいとる)③	〔他五〕	吸い出し(込ませ)て、取る。/吸取
ひさし⓪	〔名〕	帽子の、額の上に突き出た部分。/屋檐,帽檐
引き下げる(ひきさげる)④	〔他一〕	〔地位・基準などを〕低くする。/降低,拉下
わき⓪	〔名〕	〔人間のからだの〕胸の側面で、腕のつけねの下側の部分。/旁边,侧面
寄り添う(よりそう)③	〔自五〕	相手のからだに触れんばかりに近くに寄る。/贴近,挨靠
やましい③	〔形〕	良心のとがめが有る様子だ。うしろぐらい。/不好意思,内疚
読み耽る(よみふける)④	〔自五〕	夢中になって読む。/读得出神,埋头阅读
心躍る(こころおどる)④	〔自五〕	期待のあまり胸がどきどきする。/心情激动
こましゃくれる③	〔自一〕	〔子供が〕ませていて、いかにもおとなびた差し出がましい言動をする。/(小孩儿举止像大人)卖弄小聪明
近眼(きんがん)⓪	〔名〕	「近視(眼)」の日常語的表現。ちかめ。〔先見の明が無いこと(人)の意にも用いられる〕/近视眼

（续表）

愛想(あいそ)⓪	〔名〕	人に接して示す好意や愛らしさ。/好意，亲切感
勧誘(かんゆう)⓪	〔名・サ変〕	(他の人と同じように)そうしてはどうかと相手の気持ちを動かすこと。/劝诱
赤ん坊 (あかんぼう)⓪	〔名〕	「赤子(アカゴ)」の口語的表現。[おなかの中の子供の意や、世間知らずの意にも用いられる。] /婴儿
くどくど①	〔副〕	相手がうんざりするのも構わず、同じ注意をしつこく繰り返したり、代りばえのしない説明を長長と行なったりすることを表わす。/冗长的
立ちふさがる (たちふさがる)⑤	〔自五〕	何かのはざまや通路に立って、そこを通り抜けよう(から入ろう)とする人のじゃまをする。/挡住
つかつか①	〔副〕	遠慮なく(ためらわずに)進み出ることを表わす。/毫无顾忌地出入
ぎょろりと①	〔副〕	目を丸くする(して何かを見詰める)ことを表わす。/瞪了一眼
茶箪笥(ちゃだんす)②	〔名〕	茶器·飲食器などを入れておく、棚のある家具。/茶柜
店番(みせばん)⓪	〔名・サ変〕	店に居て、お客が来るのを待ったり、来た客の応対などをしたりすること(人)。/看守商店(的人)
用心深い (ようじんぶかい)⑤	〔形〕	十分に気をつけ(てい)る様子。/小心周到的，小心谨慎的
引き抜く (ひきぬく)③	〔他五〕	引っ張って抜き取る。ひっこぬく。/拔，抽
手つき(てつき)①	〔名〕	何かをする時の手の動かし方。/手势
くつがえす③	〔他五〕	普通とは反対に、裏を表にする。/打翻
店頭(てんとう)⓪	〔名〕	「みせさき」の意の漢語的表現。/铺面，门面
ちょこまか⓪	〔副〕	〔口頭〕じっとしていることが出来ないで、しょっちゅううるさく動き回ることを表わす。/焦躁不安地到处转来转去貌
追い払う (おいはらう)④	〔他五〕	じゃまな(うるさく寄って来る)ものを追って、そこをどかせる。/赶远
つじつま⓪	〔名〕	〔上下左右、うまく合うべき着物の縫い目の意〕一貫すべき、物事の初めと終り。/道理，逻辑

文法

1. ～ねばなるまい

【原文】私の左側に立っているこのこましゃくれた子を、その品の悪そうな漫画を読む間、なんとしてもあのおやじから守ってやらねばなるまい、と私は決心した。

【接续】動詞ない形＋ねばなるまい

【意思】「～なければならないでしょう」的文语说法，“必须……吧”。

【例句】

◎ 平和の実現のために努力せねばなるまい、と決心した。

2. ほかならぬ

【原文】店頭までちょこまかと出てきて彼らを追い払ったのは、ほかならぬさっきのこの家の息子だったのだ。

【接续】ほかならない/ほかならぬ＋名詞

【意思】“不是别的，正是……”。

修饰名词，表示与后项名词具有特殊的关系。

【例句】

◎ ほかならない彼の頼みなので、引き受けることにしました。

◎ 他ならない鈴木さんからのご依頼ですから、喜んでお引き受けいたしましょう。

◎ ほかならぬ彼の頼みなので、断るわけにはいかなかった。

◎ 噂話をしていたところにやってきたのは、ほかならぬ当人だった。

N1コーナ

～にして

【接续】名詞＋にして

【意思】表示“即使……也……”，「にして」前项多为说话人认为程度较高、较好的事物。

前接表示时间、场合的名词，单纯强调前者的内容。“正是……”。

也可表示在具有前项事物特征的同时也具有其他特征。“既是……也是……”。

【例句】

◎ あの成績優秀な彼にしてできなかったのだ。私ができないのも無理はない。

◎ この味は経験を積んだプロの料理人にしてはじめて出せる味だ。

◎ 彼は出版社の社長にして詩人でもある。

◎ 彼は3歳にして、ひらがなが全部読めるようになった。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com